

CASE 8 山本智之  
僕たちの夏の終わり



my nostalgic spot!

上段左：群馬県藤岡市内、上段右：大分県臼杵市街、  
下段左：埼玉県川越市内、下段右：銚子電鉄笠上黒生駅構内（全て撮影：山本智之）



「月のささやき」2009年 アクリル、油彩 50号F



「いつかの青空」2009年 アクリル、油彩 30号F

教えて！Q&A

Q 作品づくりにおいて、どんなものがインスピレーションの源になりますか。

A インスピレーションの源になるものとして、自分の子ども頃の風景や空気のイメージが、その根底にあると思います。私にとっての「懐かしい風景」とは、やはり、子ども時代を過ごした昭和40年代の風景です。絵を描くための具体的な資料としては、趣味で集めた昭和30〜40年代の資料（実物は入手困難なので、文献資料ばかりです）の他、自分で撮ってきた古い建物やホロー看板などの写真、博物館などの資料を使っています。それ以外に鉄道の古い写真集などを使っています。これらをもとに小さなスケッチを描きながら、構図を検討していきます。

Q 古びた看板や電車の錆び等のマチエールはどのように出していますか？

A 私は、学生時代から油彩とテンペラによる混合技法で制作していましたが、10年位前からほとんどアクリルをメインにして描いています。これはアクリルがベストというわけではなく、作業効率の面から混合技法の手法を応用して描いています。古びた看板や電車の錆び等のマチエールは、まず地塗りの段階でモデリングペーストやジェッソを使って、画面全体の下地を作ります。そのあと、個々のモチーフを「新品」のような状態まで、ある程度描いてから、全体のバランスをみながら錆びの位置を決め、錆び色を描き込んだり、褐色系の色でグレースしたりして「風化」させていきます。



【やまもと・ともゆき】1967年生まれ。埼玉県出身。埼玉大卒。ふるさとの風景展奨励賞、利根山光人記念大賞展トリエンナーレきとかみ部門賞。現在二紀会同人。

Information

- 第64回二紀展 開催中～10月25日 国立新美術館
- 第8回西脇市サムホール大賞展 開催中～11月7日 西脇市岡之山美術館